



JTA 2018年3月期業績について

2018年4月27日
第18004号

日本トランスオーシャン航空（JTA、本社 那覇市、社長 丸川 潔）は、このほど2018年3月期業績（2017年4月1日～2018年3月31日）をとりまとめました。

◆売上高 411億円（前期比102.1%）、営業利益 94億円（同122.8%）、経常利益 92億円（同121.3%）、当期純利益 63億円（同119.0%）となりました。

① 売上高

・旅客収入：352億円（前期比103.4%）

路線面においては、競合他社の路線拡充等、厳しい競争環境の中、「2017-2020年度JTA中期経営計画」にて新機材737-800型機への機材更新完了を2019年度末から2018年度末へ早期化を決定し、主要路線への投入を拡大しました。また石垣＝羽田線の夏季増便継続、宮古＝羽田線および那覇＝岡山線の一部期間増便に加え、旅客需要に応じた臨時便の設定を実施し、提供席数の増加を図りました。

商品面では、沖縄らしさを添えた「JAL SKY NEXT」の快適性に加え、機内Wi-Fiサービスを導入し「ずっと無料宣言」するなど機内サービスの品質向上に努めるとともに、機内Wi-Fiを活用した「VR」サービスを世界で初めて実用化するなど「一歩先を行く価値」を創るための挑戦にも積極的に取り組みました。

一方、営業面では、「創立50周年記念ウルトラ先得」の設定による閑散期の需要対策の強化、「先得割引」等の割引運賃の継続設定、訪日外国人向けの国内線運賃として「JAL Japan Air Pass」の新設、「Japan Explorer Pass」の設定継続等の運賃政策や、各種販売促進施策が功を奏し、旅客数は前年を上回りました。

結果、全路線合計では、提供席数は前期比101.6%の391万3千席、旅客数は同104.1%の291万6千人と過去最高となり、旅客収入は、前期比103.4%の352億円となりました。

・貨物・郵便収入23億円（前期比97.7%）

上期は、台風の襲来が前期より少なく堅調に推移したものの、下期は、天候不良による野菜・果実類の不作、生鮮魚介類の不漁などによる出荷の減少もあり、輸送量は前期比97.8%、貨物郵便収入は前期比97.7%となりました。

・付帯事業収入：18億円（前期比83.7%）

RAC機材更新完了による受託整備の減少等により、前期を大幅に下回りました。

② 営業費用317億円（前期比97.2%）

新機材導入に伴い減価償却費増があったものの、整備費の大幅な減少、その他全社を挙げて費用効率化に取り組んだ結果、前期比2.8%減少しました。

◆2018年度の通期業績見通しは、売上高 419億円（前期比101.8%）、営業利益 84億円（同90.2%）、経常利益 80億円（同87.5%）、当期純利益 59億円（同93.9%）を見込んでおります。

以上

JTA 2018年3月期業績概要

弊社の2018年3月期業績概要および2019年3月期業績予想は下記をご覧ください。

(1) 損益計算書

(金額の単位：億円、億円未満切捨て)

	2017年3月期	2018年3月期	前期比 (%)
売上高	403	411	102.1
営業費用	326	317	97.2
営業利益	76	94	122.8
経常利益	76	92	121.3
当期純利益	53	63	119.0

(2) 輸送実績

	2017年3月期	2018年3月期	前期比 (%)
有償旅客数 (千人)	2,801	2,916	104.1
有償旅客キロ (千人キロ)	2,328,587	2,416,543	103.8
有効座席キロ (千席キロ)	3,175,678	3,218,731	101.4
有償座席利用率 (%)	73.3	75.1	+1.8
貨物・郵便合計重量 (トン)	32,910	32,196	97.8

注) 座席利用率の前年同期比は前年同期とのポイント差。

(3) 2019年3月期の業績予想 (2018年4月1日～2019年3月31日)

(金額の単位：億円、億円未満切捨て)

	2018年3月期	2019年3月期見通し	前期比 (%)
売上高	411	419	101.8
営業費用	317	334	105.3
営業利益	94	84	90.2
経常利益	92	80	87.5
当期純利益	63	59	93.9

注) 決算数値は、監査法人・監査役会の審査後、当社決算取締役会にて確定致します。